



進化し続けることの大切さ

河本 浩一 一般社団法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

私は昔からスキーを愛してやまない、スキーヤーのひとりである。最近まで、従来のスキーにこだわって、あえてカービングスキーを買わず、インターネットのオークションを利用して、多少古くても新品同様の板を購入して楽しんできた。というのも、現在主流の「カービングスキー」は昔のようにピタッと両足を揃えて滑るのではなく、多少離して滑るため、なんとなくカッコ悪く思えて、本来天邪鬼の私は、昔のスキーにこだわっていた訳である。

ところが、先日会社の仲間とスキーへ行ったら、カービングの上級者に勧められて手ほどきを受けた。「カービングスキー」の特徴は、見た目は従来のスキー板に比べ、太く短いことであるが、実は滑り方も違う。その際、体重の移動方法が、私の知っている方法とかなり違うことが判明した。また、カービングスキーといってもここ数年更なる進化を遂げ、エッジの切れも良く滑りやすくなっていることもわかった。高齢になっても、ずっとスキーを続けたいと思っていた私にとって、無理な体の動きをせずスキーが楽しめるという点は、大きな魅力である。多少感化された私は、早速最新のカービングスキーを手に入れ、スキー場で試してみたが、今まで所有していた古いスキーより明らかにカーブの切れがあることに、心地よい衝撃を受けた。

ここ数年、スキー場において来場者数の減少に歯止めがかかっているという。理由はいくつかあるらしいが、ポイントはユーザーのニーズに合わせて工夫がされているという点かと思う。まず、施設面では子供向けやボーダー向けの施設が充実してきたことも要因のひとつらしい。その昔、「私をスキーに連れてって」という映画が大流行した頃の世代が、子供を連れてスキー場へ回帰しているとも言われている。そのため、ソリコーナーを設け、子供向け以外に大人向けにも、巨大なタイヤを用意したり、ゲレンデに本格的な雪合戦ができる施設を造ったり、かんじきならぬスノーシューを履いてトレッキング出来たりする施設もあるそうだ。また、ボーダー向けにボードパークが用意されているところも多い。いずれにせよ、気軽に雪と戯れる施設づくりが、スキー場離れに歯止めをかけているのであろう。

また、スキーの用具という意味でも、前述したカービングスキーのように、より簡単にターンができるよう日々改良がなされていることも、スキー人口減少の歯止めになっているのではないかと思う。これにより、最近は結構高齢のスキーヤーもみられる。

どの分野においても、完成されたと思った途端、進歩は止まってしまう。以前は、細く長いスキー板が王道で、ほぼ完成された分野であると思っていた所に、カービングスキーができ、更に進化しつづけ、いつの間にか主役が交替し、新たにスノーボードが普及して、新たな市場が出来ている。これは日本のエレクトロヒート技術にも同じことが言えるのではないだろうか。例えば、赤外線ヒーターなど、確立された技術だと思っていたものが、現在でも高純度炭素素材を用いた新しいヒーターが開発され、放射温度を上げるなどの改良がされている。放射エネルギーといえば、ステファン・ボルツマンの法則により、放射熱は絶対温度の4乗に比例するため、温度上昇イコール効率アップにつながる。ヒーターひとつをとってみても、正に今でも「進化」しつづけており、大変素晴らしいことである。

スキーにおいてもエレクトロヒート技術においても、ユーザーのニーズに応じて柔軟に対応していくことが大切であると思う。その双方が、これからどのような進化を遂げていくのか大変楽しみであると同時に、大いに期待したいものである。

(かわもと こういち) 北陸電力株式会社 執行役員 営業本部副本部長 営業推進部長